

「桜堤団地の仙川せせらぎ再生」

都市基盤整備公団東京支社建替事業部土木課係長 田中 真一

1 はじめに

仙川は、かつて三鷹市新川三丁目の勝淵神社前にあった丸池を源とし、南東に流下して給田三丁目の西端近くで世田谷区に入り、六郷用水に合流していた。

現在は、小金井市貫井北町三丁目に端を發し、武蔵野台地南部を南東に流れ、小金井市、武蔵野市、三鷹市、調布市を経て世田谷区に入り、同区鎌田3丁目で野川に注ぐ、流域面積19.8km²、流路延長20.1kmの1級河川です。

団地内を流下する仙川の現状は、コンクリートの3面張りの構造となっており、また、ほとんど水が流れておらず植物も生育しない環境であり、都市の中での水に親しむ空間としての役割を十分に果たしている状況となっていない。



写真 - 1 現況の仙川

2 仙川整備の経緯

武蔵野市より策定された「武蔵野市緑の基本計画 - むさしのリメイク」において、仙川の水辺環境整備が重点事業として位置づけられ、また仙川が流れる桜堤団地建替計画の具体化に伴い、仙川の美しい水辺空間の再生についての必要性が高まった。

平成8年5月に武蔵野市と公団において基本協定を締結し、団地建替事業と一体的に仙川の水辺整備事業を行うことが決定した。

これらと平行して、平成8年10月に河川管理者の東京都、武蔵野市及び公団による仙川水辺環境整備検討委員会が設置され、各関係機関の調整を図りながら水辺環境整備についての検討が行われ、平成10年3月に仙川水辺

環境整備の方針及び方策が取りまとめられた。

3 団地内の仙川整備基本方針

「武蔵野市仙川水辺環境整備基本計画」により、団地内は「自然生態系ゾーン」と位置づけられている。それを受けて公団では桜堤団地流域における仙川整備について「人間・花木・都市を彩る水辺」の基本テーマを設定し、各区域毎の整備目標を立てた。



図 - 1 区域毎の整備目標

4 仙川整備の概要

今回の整備範囲は、第1期建替範囲に接する約220mについて、環境庁「自然共生型地域づくり事業」の適用を受け、河川管理者である東京都と調整を図り、事業主体である武蔵野市からの受託で河川改修工事をおこなった。

また、建替事業において新設する団地内の「仙川水辺公園」は、その一部を河川区域として取り込み、河川と一体的に整備を行うことにより良好な水辺環境の創出を実現し、平成11年10月末第1次入居とともに完成した。本事業においては、多様な生き物が生息する自然の川を手本に、さまざまな工夫をした。

- ・乱杭や植栽を施し、瀬や淵を形成し、生態系に配慮した。
- ・護岸は、自然石空石積みを主体とし、ツタ等の植栽を行い周辺環境に調和させた。
- ・巨石や木の杭などで深さの変化をもたせた。



図 - 2 全体パース



写真 - 2 河川整備状況 1

加えて、仙川の水辺再生を主眼とし平常時の河川流量確保のために、当該公園内に砕石空隙貯留槽(300t)を設け、ソーラー発電の動力により貯留水(雨水)の放流を行い、仙川のせせらぎの再生が図られたことは、双方



写真 - 3 河川整備状況 2

の事業が相乗的な効果を生み出した結果である。なお、砕石空隙貯留槽に使用した砕石は、建物除却に伴い発生したコンクリート塊をリサイクルしたものをを用いている。

本工事の完成に伴い、“水辺に映える春・秋の草花、よどみにいるメダカの群れやタナゴのつがい”など、自然生態系の復活が期待されます。

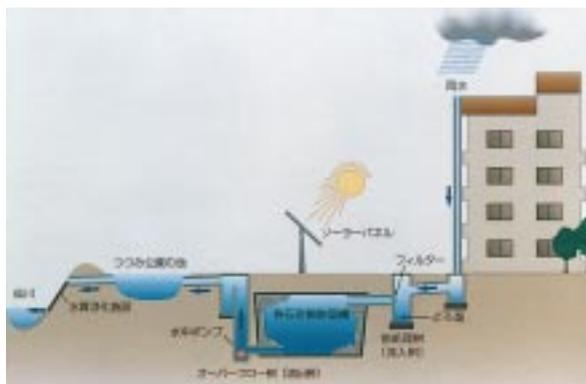


図 - 3 砕石空隙貯留槽

〔団地概要〕

所在地：東京都武蔵野市桜堤 1 丁目・2 丁目
 戸数：従前 / 1,829 戸、建替後 / 2,230 戸(予定)
 管理開始：昭和33・34年度
 敷地面積：約18ha

当団地は、JR中央線武蔵境駅からバス 5 分の、便利で環境の良い所にある。

平成 6 年度に事業着手をし、平成11年10月末に第 1 期で戻り入居を行った。